

ラーニング・サポーター ♪ 12月のつぶやき -JWUラーニング・コモンズさくらより-

図書館 2 階 JWU ラーニング・コモンズさくら(以下「さくら」と略)では、学科・専攻推薦を受けたラーニング・サポーター(本学大学院生)が学修相談を受け付けます。学修相談以外にもミニ講座の開催や「さくら」の活動支援をしながら、感じたこと、思ったことを「つぶやき」、本学学生の皆さんに学修相談に訪れてもらいたいと思っています。ラーニング・サポーターは「さくら」で皆さんをお待ちしています！

<12月のつぶやき♪INDEX>

- p1 「麻布台ヒルズ」に行ってきました @T.R.(英文学専攻博士課程前期 1 年) 12月15日 up
- p2 進化 @K.S.(日本文学専攻博士課程後期 1 年) 12月12日 up
- p2 年を取ったら…? @M.A.(人間発達学専攻(児童学)博士課程後期 3 年) 12月18日 up
- p3 爆走エピソード @A.N.(物質・生物機能科学専攻博士課程前期 1 年) 12月1日 up
- p3 目標リスト @H.C.(相関文化論専攻博士課程前期 1 年) 12月14日 up
- p4 濫読 @S.N.(英文学専攻博士課程前期 2 年) 12月19日 up

つぶやき 1 ♪

「麻布台ヒルズ」に行ってきました

12月に入りましたが、皆さんいかがお過ごしでしょうか。私は先日、11月24日に開業した「麻布台ヒルズ」に行ってきました。普段であれば、人混みが苦手な私は話題のスポットなどには落ち着いてから遊びに行くのですが、勤務先が麻布台ヒルズになった友人の招待を受けお邪魔させていただきました。これからクリスマスに冬休み、年末年始とお出かけの機会が増える時期だと思いますので、今回はこの商業施設についてご紹介します。

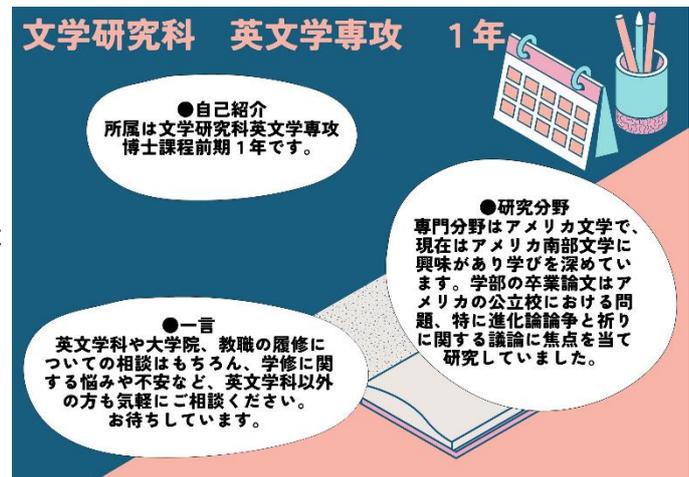
麻布台ヒルズのコンセプトは、「緑に包まれ、人と人をつなぐ「広場」のような街—Modern Urban Village—」で、港区麻布台に位置していて、訪れた際には目の前に東京タワーを綺麗に見ることができました。150店舗の中で特に注目しているのは、「アラビカ東京」です。「アラビカ」は、日本人オーナーが2013年に香港でスタートし2014年に京都にフラッグストアをオープンしたスペシャルティコーヒーブランドです。これまで、日本では京都に3店舗、北海道に1店舗しかなく、その土地に訪れた時しか飲むことができなかったのですが、今回初の東京出店でより近くで飲めるようになることがとても嬉しいです。「バルコニー パイ シックス」というオールデイダイニングもまた訪れたいと思っています。こちらは、10月まで有楽町で営業していた「6th by ORIENTAL HOTEL」がリニューアル移転した店舗で、ご飯が美味しく雰囲気も良いため移転前によく訪れていたお店です。

また、12月25日まで「AZABUDAI HILLS CHRISTMAS MARKET」を開催していて、シンボルツリーを中心に17の物販、飲食店が並んでいるそうです。特に、施設内にある中央広場の環境を生かした配置と光のドレープを纏った大屋根が綺麗で、クリスマスに訪れたい場所の一つです。さらに来年2月からは、森ビルとチームラボが共同で手掛けた「森ビル デジタルアート ミュージアム:エプソン チームラボボーダレス」が麻布台ヒルズに移転オープンするそうです。「チームラボボーダレス」は、アート集団チームラボの境界のないアート群による「地図のないミュージアム」です。これはアートの中を部屋から出て他の部屋へと移動し、アートを身体ごと没入して体験することができます。移転後の麻布台ヒルズでは、新たな作品や日本未発表作品も加わるようです。

[参考 URL]

麻布台ヒルズ

<https://www.azabudai-hills.com/index.html> (最終閲覧日:2023年12月15日)



つぶやき2 ♪ 進化

近所の土手沿いを歩いていると、また出会いました。野生のカメ。先月のつぶやきを覚えてくださっている方はご存知のあの子です。12月になっても20度に迫るような日があるとかで、もうすっかり冬眠を諦めたようにのんびりしています。カメなのに冬眠しなくて大丈夫なのか。どうぞご安心ください。わが家には20年近く冬眠していない2匹のカメが暮しています。

うちの子は数年前から冬でもエサを食べるようになりました。それまでは冬眠しないまでも食欲はなくなっていたのですが、いつの日からか毎朝必ずエサをねだります。しばらく放っておいた日にはもう大変。部屋の隅からやけに殺気立った視線を感じるのです。

「そうやって人間は自分だけ朝ごはんを食べるんだね」

無言の圧力。おそろしいものです。ダイニングテーブルに座ると、ちょうど視界の端に水槽が映りまして。おそろおそろ目をやると、長い首をこれでもかと伸ばして向こうもこちらを見ている。なんとも言えない罪悪感。そしていつの日からか、クリスマスでもお正月でも毎朝きまってエサはカメの胃袋に入るようになりました。

テレビなどを見ていると、生き物は環境に合わせて様々に姿を変え進化したという話を聞きます。どれほど長い年月をかけたのだらうかと思いましたが、もしかするともっと単純なことなのかもしれません。それはちょうど、うちのカメが「いや待てよ…、冬でも食べていいんじゃない？」って、ある日の明け方にふと思いついたかのような。こんなふうを考えてみると、「進化」は案外私たちの日常に溢れているのかもしれない。いつもの習慣を少しだけ変えてみる。すると意外にもその方が居心地よく暮らせるのかもしれない。これまでの経験から自分に合ったライフスタイルを発見しているように見えて、実は窮屈に固定してしまっていることがあるのかもしれない。今朝も元気にエサを頬張るカメを前に、ふとそんなことを思ってみるのです。

つぶやき3 ♪ 年を取ったら…?

母方の祖母が80歳になった。他の祖母は随分前に亡くなっているため、私にとって年齢の分かる身近な「おばあちゃん」は祖母だけだが、祖母を見ていると、80歳ってこんな元気なの？というも思う。身体はここもそこも痛いと言いつつも、フットワークがとても軽い。電車であちこち移動し、車中では常にiPhoneをいじっている。

私の、一番古い記憶の中の祖母は50代半ば、たぶん幼稚園の敬老パーティーに来てくれた時で、その頃から生き生きとした祖母のイメージはあまり変わっていない。ただここ数年、人の話をあまり聞かず、自分の話をすることが増えた気がする(というか気になるようになった)。正確には、人が話している話に相槌を打っているふり(?)をして、最終的に自分の話にするのだ。「このお店のケーキおいしいんだよ」「へ～、ケーキといえば私の近所のケーキ屋さんがね～」みたいな。私が話したケーキの種類を尋ねない。母にそのことを言ったら、「昔から変わんないんだよ」と苦笑していた。

しかし、きっと母の「昔」は、母20代・祖母40代くらいを指している。なぜなら祖母だけでなく、50を過ぎた母にもこのところ似たような傾向がある、と私が思い始めたからだ。分岐点はそのあたりの年齢にある。思考回路が他人視点でなく自分視点になりやすいというか、他人よりも自分に関心があるというか…うまく言えない。見た目の変化よりも「これ」こそ、年を取るといふことによる変化に思えた。人間全般がそうなのかそれとも遺伝なのか知らないが、どちらにしろ、いずれは私もこんな風に「老いる」のだろうか。変化した祖母も母も嫌ではないが、自分はこうなりたくないと思うの

文学研究科 日本文学専攻

♪ **自己紹介**
 ・博士課程後期1年(D1)近代文学専攻
 ・資格:専修免許状(中高・国語)

♪ **研究対象**
 学部時代から引き続き、大正から昭和にかけて活躍した作家、宇野浩二の文学を研究しています。

♪ **ひとこと**
 演習授業やレポートについてはもちろんのこと、教職の模擬授業や教育実習について、大学院進学との相談など、ぜひお気軽にいらしてください!



人間生活学研究科 人間発達学専攻
博士課程後期3年(児童学)

- **経歴**
 本学 家政学部児童学科 卒業
 本学 家政学研究科児童学専攻(修士)卒業
- **資格**
 保育士/幼稚園教諭/小学校教員
- **研究分野**
 「向社会的行動(思いやり行動)」について研究
 幼稚園や小学校にて参与観察を行い、質的分析を行っています

「進路に向けて何をしよう?」
 「研究テーマはどうやって決める?」
 「教職は大変かな?」など…
 気になっていることはありませんか。
 勉強や研究のことなど、
 誰かにお話したいないうときに
 お気軽にお声がけください♪



も事実である。だが、なりたくないと思いつつ、実はこれはこれで幸せなのかもしれないとも思う。自分の話をしたいということは、自分のことが好きで自分を大切にしているということだろう。それが祖母のフットワークの軽さ、活力につながっているのかもしれない。人を傷つけず、適度に自分中心で年を取れますように…でもまずは祖母の健康を第一に願うことにする。

つぶやき4♪ 爆走エピソード

12月になり、もうすぐ2023年も終了しますね。みなさんにとって今年はどうな年でしたか。私にとって2023年は、とても大変な年でしたが、周りの人に支えられて少しだけ成長することができた年でした。今日は私を成長させてくれた1人でもある、先輩についてお話したいと思います。

ご紹介する先輩は、ご自分の研究を完璧に行い、かつ、後輩たちの研究にも的確なアドバイスを下さる優秀で優しい方です。私は、先輩の研究に向かう姿勢やプレゼンテーション力、後輩への指導など、様々な部分を心から尊敬しています。また、先輩と話す内容はいつも楽しく、面白いので、毎回おなかが痛くなるくらい笑ってしまいます。今日のつぶやきは、そんな仲良しな先輩の「爆走エピソード」を書きます。

私と先輩は今年の夏に、フランスのリヨンで開催された学会へ参加しました。私たちは学会の合間を縫って、観光をしたのですが、移動手段としてレンタル自転車を用いていました。私は毎日、家から最寄りの駅まで自転車を利用して通学しているため、自転車は慣れていておりました。また、先輩は「自転車に乗るのは高校生ぶり」と仰っていたので「のんびり自転車で観光ですね〜！」なんて言っていました。しかし、いざ自転車で移動を始めると、先輩がとにかく速い！！！！！！現地のフランス人なみに爆走しており、私が追いつかない！！！！2人で1個のグローバルWi-Fiを利用していただけで、離れすぎて電波が届かず、異国の地で迷子になってしまう！！！！なんて考えながら必死に自転車を漕ぎました。優しい先輩なので、笑いながら待っていてくれましたが、先輩の自転車のセンスを感じた出来事でした。

そんな素敵な先輩ももうすぐ大学院修了が近づいているのです。とても寂しいのですが、先輩が笑顔で修了できるように私にできることはサポートしていきたいと思っています。みなさんも、大切な方との爆笑？爆走？エピソードで、たくさん笑えますように！！

つぶやき5♪ 目標リスト

気が付けば今年も残すところわずかとなりましたが、皆さんの1年はいかがでしたか？私は今年大学院に入学し、授業の負担が増えて大変な思いをしながらも、学会に参加したり、ラーニング・サポーターとして活動を始めたりと、新しいことにも挑戦しつつ、充実した一年間を過ごせたと思っています。

さて、私は今年の年明けすぐに1年間の目標リストを作成したのですが、年末ということで目標をどのくらい達成できたのか確認してみました。達成率は70%といったところでしょうか。1年前に思い描いていた自分に、少しでも近づくことができたと思いたいです。

内容を見ると、「資格試験に合格する」「納得のいく卒業研究を書く」といった学修に関する目標から、「映画館で映画を10本観る」「海外旅行に行く」など、日々の楽しみに関する項目もありました。目標リストといっても大層なものではなく、やりたいことリストといった方がいいかもしれませんね。目標リストを作る目的というと、目標を立てることで達成への道筋を可視化し、前向きに頑張るためというのが一般的かと思います。私も、自分が何をしたいのか、何をしないといけないのかということを書き文字にすることで明確にし、何となく1年の計画を立てるためというのがリスト作成の一番の理由です。日々を忙しく過ごしていると、目標を立てたことさえ忘れてしまいますが、文字にしておくことで後で見返すことができ良いですね。今年できなかったことでも、できなかったというマイナスな感情ではなく、来年こそ頑張ろうという前向きな気持ちでチャレンジしたいです。来年は達成率を上げるべく、達成した項目にシールを貼るようにしたり、リス

**理学研究科 物質・生物機能科学専攻
博士課程前期1年**

- ◆ 経歴
本学 理学部 化学生命科学科 卒業
- ◆ 資格
教員免許 (中高理科)
- ◆ 職歴
本学附属高等学校にて理科の非常勤講師
- ◆ 研究内容
β-MnO₂表面上でのPt(II)イオンの吸着・酸化還元反応機構

学修で悩んでいることがありましたら、気軽に相談に来て
ください。一緒に考えましょう。お待ちしております！！

人間社会研究科 相關文化論専攻

- 自己紹介
相關文化論専攻 博士前期課程1年
- 研究について
19世紀フランスの女子教育について、バルザックの文学作品を用いながら研究しています
- ひとこと
レポートの書き方や授業についてなど、学修で困っていることがあればお気軽にご相談ください！

トをカラフルにしたりと、やる気を出す工夫を考えているところです。

みなさんも、より充実した1年を送るべく、どんな小さなことでもいいので、来年の目標リストを作ってみてはいかがでしょうか。

つぶやき6 ♪ 濫読

レポートや卒論の時期が迫ってきて、日々時間に追われている方が多い季節ですね。まさに師走。あー、もう全部投げ出したい！とにかくゆっくりしたい！なんて思っている方もいるのではないのでしょうか。私も修士論文の執筆で慌ただしく、頭の中も机の上もしっぴやかめっちゃかです。

春休みになったら研究と並行して何しようかなと毎日考えているのですが、まずは気が済むまで「濫読」しようと決めています。岩波文庫の青帯 601-1 番のプラトン『ソクラテスの弁明 クリトン』から適当に。出かけて洋書専門の古書屋を隅から隅まで物色してみたり。こんな具合に「濫読」とは、あまり聞きなれない言葉かもしれませんが、とにかく手当たり次第に本を読むことです。続けていくと、魅力的な本、理解できない本、つまらない本、印象的な本、心を軽くしてくれる本、いろいろな本に出会うでしょう。最近ではたくさんブックレビューが気軽にネット上で読めて、本を選ぶ基準が他者になっている気がします。しかし、濫読をするためにレビューを読む準備は必要ありません。一見非効率に思われる濫読の時間は、自分が面白いと思う本を見つける慧眼を得るための一助となるはずですよ。

それでも読書は退屈だと思う方もいらっしゃるでしょう。しかし、本は最初から最後まで読む必要はありませんし、本は勝手に逃げ出したりはしません(絶版になって入手困難になったりしますが…)。いつでも図書館で、本屋で、古書屋で、たくさん本があなたを待っています。スマホを置いて、背表紙だけを眺めることから始めてみましょう。興味深い本に出会ったら、ぜひ私に感想を報告しに来てくださいね。

✧ 文学研究科 英文学専攻 ✧
Department of English Literature

✧ 自己紹介 ✧
英文学専攻 博士課程前期 2年

✧ 研究対象 ✧
18～19世紀イギリス詩：ロマン派詩人 William Wordsworth
(その他興味関心：ヨーロッパ古典文学、西洋哲学・思想史など)






✧ ひとこと ✧
英語・語学習得のコツ、レポート・卒論の不安点、資格取得や留学の相談、人文科学への関心など、学修相談上で困っていることを一緒に考えてみませんか？
お話ししたい内容がまとまらなくてもOKです◎
思い立ったらぜひ、お気軽にお越しください！
お会いできるのを心待ちにしています～☺



ラーニング・サポーターのつぶやき (2023年12月)

ホームページ https://lib.jwu.ac.jp/lib/lc_ls.html

編集: JWU ラーニング・コモンズさくら